

GOKURAKUJI DAYORI  
極楽寺だより  
2021(令和3)年 12月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

# 御正忌報恩講のぐ案内

## 清光仏教婦人会の報恩講も、 合わせてお勤めします

コロナ禍は、落ち着きを見せていますが、まだまだ  
油断はできません。

お正月には人の動きも多くなることが予想されま  
すので、今年も残念ながら、日程を変更し、年内に  
お勤めすることに致しました。何卒、ご理解をお願  
いします。

十二月十八日（土）

昼一時半〔野波瀬の方〕

夜七時半〔自由参拝〕

十二月十九日（日）

昼一時半〔野波瀬以外の方〕

法話は、住職がお話し致します。



※ 今回も、地区別に参拝日を分けました。  
ご都合により、違う日にお参りされて  
も構いません。

※ 長門市におけるコロナ禍の状況次第で、  
急遽中止となる場合もあります。

※ 市外の方は、申し訳ありませんが、今  
度も参拝自粛をお願いします。



マスク着用を  
お忘れなく！

# 御正忌報恩講とは

親鸞聖人が亡くなられた日をご縁として開かれる法要です。親鸞聖人は七五〇年も前に亡く  
 なられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを「よりど  
 ころ」とし生きる力とした、たくさんの念仏者を生み育ててきました。私たちの先輩方は、  
 この御正忌という法要を一番大切にされ、人生における本当に尊いことを聴聞されたのです。



二〇二〇年の十六日  
御命日参拝者



二〇二二（平成四）年一月十六日の親鸞聖人の御命日には、十三時半よりお寺でお  
 勤めをいたします。お寺の者だけで勤めますが、皆様もお仏壇にお参りください。

今年の御正忌報恩講も、日程を短縮し、お齋も中止します。お花入れも、お  
 供物盛りも、できません。何とか、来年には再開できれば良いのですが…。  
 お手伝いの皆様、これからも何卒よろしく願いいたします。



お寺のお世話をしてくださる、総代・世話人の皆さんです。よろしくお願いします。

総代長		木村慎治さん（野波瀬）	
副総代長	松野行利さん（野波瀬）	総代	野村昭一さん（上東方）
総代	磯 昭正さん（沢江）	総代	木村重彦さん（向山）
会計	吉見周平さん（市）	監査	藤村勇次さん（久原）

野波瀬西側	田中征二さん	市・湯免	吉見周平さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	田中正幸さん
	宮崎忠彦さん	久原	宮本雅志さん
	青海隆司さん	向山	木村辰也さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村正起さん
野波瀬東側	岩本 勉さん	下東方・小島	河野光芳さん
	藤永拓之さん	豊原	山中博道さん
	田村成治朗さん		山中博之さん
	石川義文さん		宮本 智さん
	江本富夫さん		坪野美人さん
岩本国久さん	平野	山中洋介さん	
辻並・中小野	松並唯夫さん	浅田・沢江 上ゲ・殿村	大田 貢さん



# おしエノカケラ

OSHIE NO KAKERA



今年一年を振り返って「敗け」を失うと…

今年も、コロナ禍に振り回された一年でした。ワクチン接種も広まり、治療薬の開発も進み、ようやく出口が見えかけてきましたが、まだまだ油断はできません。

これまで人類は、ペストやスペイン風邪など、幾度も感染症に苦しめられてきました。しかしこれほどまで、グローバルに高速で人や物が移動する時代はありませんでした。それだけ、感染が広がるリスクも、桁外れに大きくなったということです。

まさに想定外であり、未曾有（「未だ曾て有らず」歴史上、一度も起こったことがない）の事態だったと言えます。何より、ここ数年は「ムダを無くせ」「合理性を高めよ」という号令の下に、医療体制が縮小されてきましたから、難しい対応を迫られたことでしょう。感染対策だけでなく、ワクチン接種や



ERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~

助成金給付などについても、現場は厳しい状況だったと思います。

また、東京オリンピック・パラリンピックは、当初心配されたほどの大きな混乱もなく終わりました。スタッフの方々のご苦労は、大変なものだったでしょうが、この結果が必然だとは思えません。ギリギリの中で、結果的に何とか終わることができたというのが、本当のところではないでしょうか。

このような状況ですから、たくさんの方々の失敗や反省があったはずですが、それを、責めているわけではありません。未曾有の事態なのですから、あつて当然のこと。ただ、失敗にきちんと向き合い、整理して、次につなげることが必要なのだと思います。これから先も、どのような事態が起こるかわかりません。対応能力を上げるためにも、必要なことです。

しかし政治家の方たちからは、成果を誇る言葉はあつても、反省は伝わってきません。それは、反省の言葉を言えば、叩かれるからか。それとも、反省するのは自虐的だと思ってい



あわないことも、創造的な振る舞いとは言えません。なぜなら、これからも同じ失敗を繰り返すだけになってしまえますから。このような生き方は、仏教でいうところの「迷いの境界」そのものです。

最先端の映像技術を使い、テクノポップユニット Perfume のライブ演出サポートや、リオオリンピック閉会式のセレモニー演出を手掛けたメディアアーティストの真鍋大度さんは、「たまたまの成功はもらない。欲しいのは失敗の原因だ」と言われています。たまたま成功することがあったとしても、それで「うまくいった。よかった!」となるのが、一番良くない。なぜなら、たまたまだつたら、何がたまたまかわからないから、次にはつながらない。しかし、失敗と向き合えば原因がわかる。それを一つ一つ消していけば、次につながる。だから、欲しいのは「失敗の原因」なのだ。



(日本テレビ『億3000万人のSHOWチャンネル』2021年9月12日放送)

これは、まさに金言だと思えます。次の世代のことを考え、よりよい社会を創つていこうと思うならば、たとえそれが自

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

分にとつて都合の悪いことだとしても、「失敗の原因」を探し、語り継ぐ必要があるはずです。

また、モデルでタレントのアンミカさんは、お父さんから「失敗なんてないんだよ。そこに学びや発見があれば、失敗とは言わない。失敗があるとすれば、それは字の如く、敗けることを失つて天狗になる時だ」と教えられ、育てられたのだそうです。

(NHK・Eテレ『SWITCHインタビュー』アンミカ×マンボウやしろ)

敗けの中から知らされることがあり、敗けを見失うことで気づけなくなることがある。とても大切なことです。ならば、失敗から目を背け、敗けを認めず反省しないことは、成長するチャンスを失うことでもあると言えるでしょう。

自慢ではありませんが、私は昔から数多くの失敗をしてきました。思い出すだけでも苦々しいことばかりですが、そのおかげで「こんな時には、どうすれば良いのか」という選択肢や引き出しを持つことができ、対応能力がかなり上がったと自負しています(それだけ、許されて生きてきたのだということ)





も、身に染みんでいます。

ですから、十代、二十代の若い人たちと話す機会があると、「失敗のススメ」を力説しているのです。「失敗は若いうちに経験した方がよいよ。歳をとってからの失敗は、ダメージが大きいかから。失敗した時にどう振る舞えば良いのかを、周りが温かく見守ってくれる若いうちに、学んでおくべきだよ」と。これも、失敗から目を背け続け、ある程度の年齢になってから挫折を味わったことで、結構深いダメージを受けてしまったという、私の苦い経験からなのですが…。

「たまたまの成功」に安心していても、それがいつまで続かわかりません。想定外や未曾有の出来事は、起こり得るのです。だからこそ、転び方や受け身、起き上がり方を身体に染み込ませておかなければ、大怪我もするし、立ち上ることもできなくなってしまうのです。



こう思えるようになったのは、やはり親鸞聖人の人間観に影響されているからだと思います。阿弥陀様の光に照らし出された時、どこまでも不完全であり、本当の智慧を得ることはで

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

きない私であることを知らされる。しかしそんな私は、同時に阿弥陀様から、慈しみ、大切に思われている存在なのだ。これが親鸞聖人の人間観です。

また、親鸞聖人が和国の教主（日本のお釈迦様）と尊敬された聖徳太子は、『憲法十七条』に「われかならず聖なるにあらず。かれかならず愚かなるにあらず。ともにこれ凡夫ならくのみ」、私がいつも正しいわけでもなく、また相手がいつも愚かなわけでもない。共に、ただの人間であり、それが大前提なのだと言われるのです。

だから、卑屈になれとか、開き直れと言われていたのではありません。それは、迷いを深める行為です。「共に凡夫」という前提に立てば、失敗することは当たり前。そこから失敗にどう向き合い、どう受け止めていくのが問われるでしょう。何より失敗しても、過ちを犯しても、阿弥陀様は決して私を見捨てることはないと言われているのですから、安心して反省し、失敗に向き合うことができるのだとも教えられます。

私たちの社会は、失敗しない人が優秀だと思っているのではないのでしょうか。しかし人間である限り、失敗しない人などいないのです。「失敗したことがない」と言い切れる人がいるとしたら、それはアンミカさんのお父さんのように、失敗を

経験けいけんに変かえ、豊ゆたかに活いかしている人だと思おもいます。「たまたまの成功せいこう」を握にぎりしめ、失敗しがいから目めを背そむけ、責任せきにんを転嫁てんかしながら言うのであれば、そう思おもっていること自体じたいが、実じつは人生じんせいを浅あさく、貧ますしいものにしていく「失敗しがいの人生じんせい」なのかもしれませぬ。

オリンピック直前ちよくぜんには、開会式がつきよくたんどうしやの楽曲担当がくきやくたんとう者が、二十年以上前の雑誌ざっしのインタビューで、障害しょうがいを持つ同級生をいじめていたことを告白こくはくしていたとして問題もんだいとなり辞任じにん。また、開会式がつきよくたんどうしやのヨーディレクターが、やはり二十年前の芸人時代げいにんじだいに、ホロコーストせいけんか（ナチス政権下のユダヤ人の迫害はくがいおよび殺戮さつりく）をコントのネタネタにしていたことにより解任かいにんされるということがありまし

た。どちらも、大変たいへんな問題もんだいだと思おもいます。しかし、違和感いわかんを覚おぼえるのは、「では、それを現在げんざいどう考かんがえているのか。あの失敗しがいをどう受け止とめているのか」が問とわれなままに、感情かんじょう的なバッシングばっしんぐ、爆発ばくはつ的な炎上えんじやうに流ながされての謝罪しゃざいや辞任じにんが繰くり返かえされることです。いじめも差別さべつも、決きして許ゆるされることではありませぬ。傷きずつかれた方かたへの謝罪しゃざい、反省ふかへつは不可欠ふかけつです。それがないことを批判ひはんするのであれば納得なっとくできませんが、失敗しがいへの向き合い方かたについての検証けんしやうなしに、ただ叩たたき、切り捨きりすてるのは、いじめ、

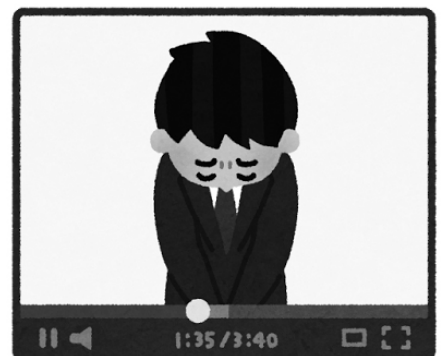
～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

の構図こうずと同じです。

誰たれしも、若かりし頃の恥はずかしい行為こういや、幼稚ようちな失言しつげんはあります。私も、思おもい返かえすだけで赤せき面めんするようなことはかりです（そればかりか、友人ゆうじんに「昔むかし、こんなこと言いってたよなあ」と指摘してきされることも。こちらは覚おぼえていなくても、知らずしらずに人を傷いたつけていることさえあるのですね。なんと罪深つみふかい…）。

それを、ただバッシングするただけに掘ほり返かえし、人格じんかくや人生じんせいを決きめつけられる。その矛先ぼしせんは、いつ誰たれに向けられるかわからない。そんな社会しゃかいは誰たれにとつても不幸ふこうなものにしかありません。ある芸能人げいのうじんの方はこの辞任じにん・解任かいにん騒さわぎの後のち、週刊誌しゅうかんしの記者きしやが、自分の過去かこの不適切ふてきせつな発言はつげんや行動こうどうの映像えいざうや記事きじをSNS上じやうじやうじやうで募集ぼしふしていることを知しって驚おどろいたそうです。ゾツとする話わです。こんな時代じだいですから、失敗しがいに向むかひ合うのはますます難むずかしくなりますし、目めを背そむけたり、隠かくしたい気持ちきもちになるのもわかります。

ならばいつそのこと、きちんと向き合い、謝罪しゃざいし、反省ふかへつし、





## 極楽寺だよりを 送りませんか



都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報に振り回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。お寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」がお役に立つのでは…と思っています。どうぞ遠慮なくお申し出ください。

学びとした方が、人生をより良いものにするのではないでしょう。うか。いつ指摘してきされるかと、ビクビクしながら隠しかく続けるのは、それもまた不幸な生き方なのですから。

私自身、今年一年を振り返ってみれば、「ああしておけば」「もつとできることがあったのでは」と、失敗や反省ばかりです。しかしそこに向き合うことでしか、より良い人生を歩むことにはならないのだと、考えさせられています。今年の失敗が、来年以降に活いかされて、「あの失敗があるからこそ、今の自分がある」と言えるようにしたいものです。■



日頃耳慣れない、お寺で使われる言葉をご紹介します、『お寺の業界用語』。ぜひとも覚えて、お寺に親しんでいただけたらと思います。



## しんぼち じゃくいん 新発意・若院

浄土真宗では、寺院後継者（お寺の息子など）のことを「新発意」と言います。

元々は、「新たに仏道を歩み始めた者」

のことですが、後に日本では「新たに出家した僧侶」のことを言うようになりました。しかし浄土真宗は、在家生活の中で仏道を歩む教えなので、寺院後継者のことを指すようになったようです。私も、かつては「新発意さん」と呼ばれていました。成人を越えた頃から、今度は「若院」（若い院主＝次期住職）と呼ばれます。新発意、若院は、ご門徒の皆様のお導きにより育てられます。極楽寺の若院も、ぜひお育てください。皆様にお育ていただいた私からも、何卒お願い致します。（住職）



# 月々の言葉

Monthly Words



## 12月の言葉

今年一年も、あつという間に終わろうとしています。振り返ると、「ああしておけば」「こうしておけば」と、未練ばかりが残る一年だったのではないか。毎年、そう思っているような気がします。

「未練」という言葉には、二つの語意があるようです。一つは、「執心が残って思い切れないこと。あきらめきれないこと」をあらわします。では私は、何をあきらめきれないのか。何に執着しているのか。その中身を確認しておかなければ、後悔しなくても良いことをよくよ悩んでしまうことにもなりかねません。

仏教は、「執着」とらわれる心を警戒します。「こうしたい」「こうあらねばならない」という思いは向上心を生むこともあ

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

りますが、同時に自分を縛り付け、決めつけ、苦しみを生むことにも繋がります。私は一体何を求めていたのか。それを振り返ることも、とても大切なことだと思います。



精神科医の泉谷閑示先生は、日々、心を病み、自虐的になってしまった人たちと接しておられます。「自分は価値のない人間だから死んだ方が良い」「生きているのは迷惑かけているだけだ」「生きていく意味がわからない」。そんな言葉を聞く中で、人生の「意義」と「意味」について考えるようになったのだそうです。

泉谷先生は、「意義」とは、「有意義な時間を過ごそう」という言い方をするように、「価値」を生み出すもの。平たく言う、「お金になる」「知識が増える」「スキルが身につく」など、目に見える、役に立つ、数字で表されるものだとされます。それに対して「意味」とは、味という字で表されている通り、それぞれが「味わう」ものではないかと言われるのです。

『仕事なんか生きがいにするな、生きる意味を再び考える』泉谷閑示「味わい」は、人それぞれ違います。高級懐石が好きな人も



いれば、B級グルメが好きな人もいます。どちらが良いかなんて、人それぞれ。比べるものではありません。高ければ良いわけでも、安いからダメということでもありません。でも、やはり一番ホツとするのは家庭料理ですよね。それも各家庭によって味はまったく違いますし、どちらが上とか下とか比べようがありません。

人生の「味わい」についても同じです。人それぞれ、比べようがない。数字で比べることなどできないのですから、それぞれが深く味わうしかないのでしょうか。



私の先輩のお母さんは、料理があまり上手ではない方だったそうです。お味噌汁も薄い味付けで、お父さんと先輩は、いつもそれを我慢して飲んでいました。そのお母さんが亡くなられた時のことです。お葬式が終わり、お父さんが先輩のところに来られて、ポツンとつぶやかれました。「あの、薄っすい味噌汁、もう一度飲みたいなあ…」と。先輩も「ホント、そうだなあ…」もう一度飲みたいなあ」と思ったと言われます。

美味しいとか不味いとか、高いとか安いとかではなくて、掛

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

け替えのない「味」がある。誰が何と言おうと、私にとって大切な「味」があるのです。それは私たちの人生も同じなのです。誰とも比べようがない、掛け替えのない人生がここにある。それを深く味わう中で知らされることこそ、人生の「意味」なのでしょう。

ところが、人生を深く味わうには、こちらが育てられなければわかりません。ほのかな香りや、豊かな苦味、そこに込められた想いや温もり。それは、味わう側が育てられなければ、わからないのです。しかし私たちが生きる現代社会は、深く味わうどころか、数字や、目に見える「意義」ばかりを追い求めているのではないのでしょうか。そんな社会が、「生きる意味」を見失う人々を生み出しているのではないのでしょうか。

実は、「未練」の二つ目の語意は、「熟練していないこと。また、そのさま。未熟」というものなのです。つまり、私が悔やむべき「未練」は、「有意義な時間が過ぎせなかつた」「お金や知識を得ることができなかつた」といった目に見えるのではなく、目に見えないものを深く味わうことができなかった、この私の未熟さではないかと知らされるのです。



昔から、「仏法を味わう」と言います。仏様の教えは、私たち凡夫には量り知れないものですから、「何冊本を読んだから」「何年勉強したから」わかるものではありません。味わい尽くせるようなものではないのです。しかし、学ぶほどに「もっと深かったのか!」「もっと広かったのか!」「薄っぺらな考えで、決めつけていたなあ」と、私のものの見方の小ささを知らしめ、私を包む世界の広さや、人生の深さに気づかせてくださる教えなのです。

つまり、仏法を深く味わうとは、人生を深く味わうということでもあるのです。だから、一鍬一鍬、人生を耕し豊かなものにしていくように、人生の場面、場面で、生活のその場、その場で、味わうしかない。それは同時に、深く味わう身へと育てられることでもあるのです。

仏法は、味わい尽くせなくても「未練」が残るものではありません。この私を包む世界の大きさは、私が知ろうが知るまいが、変りはないのですから。しかし、後悔しなくても良いことをくよくよ悩む私に、「そんな未練にこだわっても、虚しいだけだ」と、本当に求めるべき世界を示してくださるのです。■

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words



## 1月の言葉

新しい一年が始まります。区切りを迎えると、やはり気持ちも改まりますね。そして、新たな一歩を踏み出す際には、誰もが希望に満ちた言葉を胸に思い浮かべます。お正月のテレビ番組でも、「今年は、どんな一年にしたいですか」という質問が聞かれますが、そこで後ろ向きという言葉が出てくることは、ほとんどありません。

しかし時間が経つにつれ、新たな気持ちも萎えてきて、次第にネガティブな言葉に引きずられはしないでしょうか。私自身を振り返ってみても、一年一年そんなことの繰り返しだったようにも思えます。特に今の時代は、生きる力を奪うような言葉に溢れていますから、それを聞かされたときに気持ちも落ち込んでしまいます。

以前、プロ野球の若手選手二人を招いたインタビュー記事を読んでいた時のこと。一人の選手が、友人であるもう一人へ

Monthly Words

の選手をからかうコメントをしました。すると、からかわれた選手が返したのが、「死ね！」という言葉。しかもそれが、そのまま記事に書かれていたのです。親しい友人同士とはいえ、若い人たちの間には「死ね！」という言葉が、日常的に使われているのか。そしてそれが、当り前のように記事として掲載される時代になったのかと、暗澹たる気持ちになりました。



一昔前までは、若者が使う「死ね」や「殺す」という言葉は、不良やヤンキーたちが相手をおどし、こわがらせるために使っていたものでした。自分を強く大きく見せるために粹がつて背伸びした、非日常的な言葉だったと言えるでしょう。ところがテレビゲームやネットゲームが普及し、いわゆる「対戦型ゲーム」をしている子どもたちは「死んだ?」「うん、殺した」という会話を、当り前のように交わしています。それが日常会話にも、軽い感覚で使われるようになったのでしょうか。普段は何気なく聞き流せる言葉でも、心が弱っている時に聞くと、生きる力が奪われていきます。言った側に悪意はなくても、言われた側にはダメージが積み重なっていくのです。そ

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

んな言葉が、日常的に使われている。いや、インターネットやSNSには、もっと酷い、悪意ある言葉が当り前のように飛び交い、増幅され、広がっています。

「あんな顔だったら、わたしなら死ぬ」。

石井政之さんは十代の頃、通りすがりの女子高生に、こんな言葉を投げかけられました。石井さんは顔の右半面に、単純性血管腫という赤く大きなあざがあります。女子高生は、石井さんの顔のあざを見て、軽い気持ちで言ったのでしよう。しかし、繊細な十代の男の子にとっては、心をえぐり取られるような残酷な言葉だと思えます。いや十代に限らず、「私なら死ぬ」という言葉は、「あなたには、生きる資格がない」という存在そのものを否定する言葉になるのです。

石井さんは、「ふざけんなよ、ぼくの人生を何も知らないくせに。そう思った。でもインターネットのない時代だったから、それは通り過ぎていく話だった。今は違う。ネット上に匿名の言葉の暴力が積み上がっていく」と言われています。その後、顔に疾患や外傷がある人たちの自助グループ「ユニークフェイス」を立ち上げ、またライターとして「美醜」を巡る社会の姿を追ってきた石井さんは、かけられた軽い言葉に背中を押さ



れ、「死を選んだ人を数多く見てこられました。

(『安楽死と呼ぶ前に、「私なら死ぬ」はヘイトスピーチ ネットに堆積する

匿名の暴力 障害ある人の受け止めは』2022年3月18日 京都新聞)

言った側は軽い気持ちでも、悪意はなくても、厳しい状況に置かれた人にとっては、死という選択肢へ背中を押すきっかけになる。以前なら通り過ぎていく言葉が、今はネットやSNSに積み上げられている。その言葉の暴力に、生きる力を奪われる人が増えている。これが私たちの生きる社会の現実です。

『大無量寿経』というお経には、阿弥陀如来の前身である法蔵菩薩が立てられた四十八の願いが述べられており、その四番目に「無有好醜の願」があります。「若し、私(法蔵菩薩)が建てようとする国(浄土)の人たちに、好醜の区別があるならば、私は仏(阿弥陀如来)に成らない」という願いです。阿弥陀如来のお浄土は、美醜の区別がない世界なのだと。

この「無有好醜の願」を通して新たな視野を開いたのが、「民藝運動」で有名な思想家・柳宗悦でした。「民藝運動」とは、民衆が暮らしの中で使う、無名の工人がつくった平凡な日用雑器に美を見出すものです。それまで誰一人としてその美的価値を見ることのなかった日用品に、驚くべき美の姿を発見する。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

その思想は、凡夫が凡夫のままに、阿弥陀如来の他力(利他力)によって光輝く存在となるという親鸞聖人の教えから、大きな影響を受けています。

柳は、「無有好醜の願」から開か

れた視野を、「美の法門」というタイトルで講演し、このように語りました。

「美醜は、人間の分別によつて生じる迷いである。真に美しいもの、無上に美しいものとは、美醜二元から解放されたもので、それ故自由の美しさである。本来自由たることが美しいのである。美醜二元をこえるとは、本来美醜のない性質が備わっているのだから、美しく成ろうとあせるより、本来の性に居れば、何ものも醜さに落ちないはずだ。／＼しかし、本来の性に在るということは、心弱い普通の人間にはなかなか困難である。そうした人々を救うのが仏であるように、美の世界にも、他力が用意されている」

(三重県立美術館柳宗悦展図録『柳宗悦の「美の思想」について』酒井哲朗)

柳の言葉を通して考えれば、「わたしなら死ぬ」という言葉は、美醜に囚われた、迷いの中にいる者の言葉だと言えるでしょう。



柳宗悦

う。迷いの中で、狭くて浅い価値観を振り回し、人を切り捨て  
る。それでは、真の美しさは見出せない。しかも迷いの言葉は、  
立場が変われば、自らの存在を否定する言葉となつて、自分に  
襲いかかってくるのです。

しかし、「心弱い普通の人間」には、迷いの言葉に惑わされ  
振り回されることから抜け出し、自身の真の美しさを見出すの  
は「なかなか困難」です。そんな私たちを救うために、阿弥陀  
如来の利他力というはたらきがあるのです。

それは、「わたしなら死ぬ」という言葉に動揺し、「こんな私  
には、生きる資格がない」と自らを貶める私たちに、「そんな  
言葉に惑わされるな」「真実の有り方に目覚めなさい」「あなた  
は、生きていいんだ」と呼びかけてくださるはたらきです。生  
きる力を奪う言葉の中にあつても、「でも、生きる」という力  
を与えてくださる。そんな阿弥陀如来からの呼び声が、利他の  
はたらきが、「南無阿弥陀仏」というお念仏として届けられて  
いる。お念仏を拠り所に、苦難の人生を歩まれた先輩方の歴史  
が、それを証明しています。

「フジモン」という愛称でお馴染みの藤本敏史さんと、「一兆  
個のギャグを持つ男」と自称する原西孝幸さんによるFUJ

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

IWARAというお笑いコンビがお  
られます。彼らには、こんなギャグ  
があります。

フジモンさんに「死ぬ！」とツツ  
コまれた原西さんが、力強く言い放  
つのです。「生きる！」と。

私は最初にこのギャグを見た時  
に、感動してしまいました。生きる力を奪う言葉に、ここまで  
自信を持って言い返せたら良いですね。でも、心弱い普通の  
人間には、なかなか言えることではありません。しかし、そん  
な私の支えとなるために、阿弥陀如来のはたらきは届けられて  
いるのです。

新たな年を始めるに当たり、誰の言葉を聞いていく一年にす  
るのか、そして本当の希望の言葉とは何なのかを、よくよく考  
えていかなければならないと、改めて思うのです。 ■



FUJIWARA



極楽寺  
ホームページ

極楽寺.comで検索を

レイアウトを  
リニューアル  
しました

# 二〇二一年 極楽寺のご法座

無事に、勤めることができれば、良いのですが…。  
コロナ禍の状況次第で、変更・中止となる可能性も  
あります。その際は、ご連絡いたします。

三月三日～四日 春の彼岸会法要

講師 美祢市寂定寺住職 柏宗桜師

四月十八日～十九日 春の永代経法要

講師 山口市正善寺住職 名護屋宗味師

五月二十一日(毎年) 清光仏教婦人会 降誕会

六月十五日～十六日 夏法座

講師 山口市蓮光寺住職 岡本達美師

八月十四日～十五日(毎年) 盆法会

九月二十三日(毎年・秋分の日) 納骨堂追悼法要

十一月十六日～十七日 秋の永代経法要

講師 福岡信覚寺住職 渡邊如心師

十二月十八日(毎年) 清光仏教婦人会 報恩講

十二月三十一日(毎年) 除夜の鐘つき 初礼拝



ご法座には、  
門徒式章をつけて  
お参りしましょう

門徒の正装は、門徒式章をつけた服装とされています。喜びも、悲しみも、仏様と一緒に。お参りの際は、式章をおつけ下さい。

2022 (令和4) 年

## 年回忌表

一周忌 2021(令和3)年往生  
三回忌 2020(令和2)年往生  
七回忌 2016(平成28)年往生  
十三回忌 2010(平成22)年往生

十七回忌 2006(平成18)年往生  
二十五回忌 1998(平成10)年往生  
三十三回忌 1990(平成2)年往生  
五十回忌 1973(昭和48)年往生  
百回忌 1923(大正12)年往生

※ お配りした、カレンダーの台紙にも、書いてあります。





# お礼とご報告



## ポルトッポ収集

山口別院で換金され、県内福祉施設へ寄付されます。

今年は、7.6kg (空き缶約25,333個分)

## たすけあい募金

本堂に設置した募金箱へのご懇志です。

合計 33,028 円

ありがとうございました。被災地への義援金として寄付いたしました。

## 物でお布施

家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。下記の物があれば、お寺までお持ちください。

書き損じはがき・未使用切手・商品券・未使用テレフォンカード・ビール券など金券・CD・DVD・ゲームソフト・ゲーム機器



《物でお布施 今年分》 CD 21枚 タオル 76枚 DVD 5枚  
切手 60,212円分 テレフォンカード 9枚 書き損じ葉書 203枚 ビール券 23枚

アーユス仏教国際協力ネットワークに送り、紛争で傷ついた人たちや難民、国内外の自然災害や環境破壊で困難を強いられた人たちのための活動に役立てます。



## 皆様、本当にありがとうございました



□今年も広島カープは、<sup>ざんねん</sup>残念ながらBクラスの4位でシーズンを終えました。コロナ禍の影響もありましたが、<sup>か えいきょう</sup>今年の戦いぶりを見ていると、とても優勝争いに絡めるような状態ではなかったと思います。とはいえ、「どうせ打てないだろう」「きっと逆転されるよ」などとネガティブな言葉をつぶやきながら、結局ほとんどの試合を観戦しました。一緒に見ている家族は、<sup>ふかい</sup>さぞ不快だったと思います。しかし、こうでもつぶ

やかなければ<sup>せいしんてき</sup>精神的に持たなかったのです(その言葉通りの結果になるのが、これまた寂しい限りでしたが)。□ところが、シーズンが終わってしまうと、これまた寂しいのです。これから来シーズンまで、インターネットで、わずかなカープの記事を探<sup>さが</sup>す日々が始まります。つまるところ、私はカープを愛しているのですね。仏教では、「愛は憎しみと背中合わせである」と教えられますが、まさにその通り。愛するが故に<sup>ゆえ くろう</sup>苦悩もまた深いのだと、身に染みています。□カープファンの友人に、今年の戦いぶりや監督の采配を愚痴ると、彼は「弱いカープも、ボクは大好きです」と言い切りました。なんて、素晴らしい態度なのではないでしょうか!阿弥陀様のような彼の言葉に、私はただ恥じるばかりでした。カープがあるからこそ、苦悩もありますが、同時に喜びもあるのですよね。この有り難さを忘れてはならないと思うのですが…、また来年もネガティブな言葉をつぶやきながら試合を見る、そんな自分の姿が思い浮かびます。私の迷いの深さを、つくづくと思い知らされています。■

極楽寺清光仏教婦人会の皆様へ

# 仏教婦人会報恩講を、 御正忌に合わせてお勤めします。

御正忌が年内に取り越されます。

コロナ禍の中、短期間に何度も法座を勤めるのは無理だと判断しました。  
ご理解ください。

仏婦よりお供えしたお供物を、  
参拝者全員にお配りします。  
なお、今回は会費を集めません。



□ 毎年恒例の除夜の鐘つき。おでんを用意し、たくさんのお参りで賑わい  
ますが、今年も新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、参拝自粛とさせてい  
ただきます。□ 鐘は撞きますが、お寺の者だけで行います。今回も、音だ  
けで年越しを味わっていただけたらと思います。□ 楽しみにしておられる方も

多かったのではないのでしょうか。住職もガツカリしています。コロナ禍が収まれば、またおでんを用意  
してお待ちしておりますので、その際はぜひお越しください。

□ また、一月一日十時からの元旦会も、お寺の者だけでお勤めします。

各家のお仏壇にお参りください。



## 除夜の鐘つき・元旦会 参拝自粛のご案内